

圓教寺大講堂

大講堂は、圓教寺の三つの堂として知られる三つの建物の最北端に存在している。名前が示すように、このお堂は講義の場所であり、圓教寺の境内の中で最も重要な建物の 1 つと考えられている。元の建物は 10 世紀に、花山法皇（968-1008）の命によって建てられたが、現在の 2 階建ての建物の歴史は 15 世紀にまで遡る。その大陸と日本の折衷様式の建築デザインは、天台宗の特徴を備えている。たとえば、お堂の御本尊であり、歴史ある釈迦牟尼仏の像は、凹んだ中央の空間に収められている。像は中央が先細りになっている蓮台に鎮座している。その形は、物理的、形而上学的、および精神的な宇宙の中心を表す、仏教の宇宙論における神聖な 5 つの山からなる須弥山を表している。

釈迦牟尼は、教えを説く行為を表すポーズを取って立っている似通った二体の仏像に両側を囲まれている。金色に輝く三尊像は、その高い位置から、三つの堂のうちの一つである常行堂の前の舞台がある中庭をお眺めになっている。年に数回、大講堂に祀られている仏像を祀るために舞樂が奉納される。これら 2 つの建物が南北に分かれて向かい合う形式から、三つの堂が綿密な計画を基に建てられたことがわかる。

大講堂と各像は、国の重要文化財である。